

### ○行進2日目(9日・金)

好天下、尾鷲市役場で出発式。坂場町まで歩き、その後は紀北町へ。牟婁路はクルマ移動が少しずつ増えてきた。自治体全体が「限界集落」化しつつあるとは地元の方の弁。とくに個人商店が店を閉めると高齢者がたちまち買物難民になる。

海山支所界限を歩いてからクルマ移動。紀北町役場では町長が「核兵器の禁止を」、「福島原発事故が収束していないのに再稼働は許されない」と挨拶。通し行進者の紀平さんは、しっかり熱の入った力強い発言だったので感動したとのこと。地元の実行委員会と自治体関係者との良好な関係の反映もあるのでは。同町の近澤議員からは美味しい「おさすり(いばら饅頭)」の差し入れもあってみんな元気を回復。

紀伊長島駅で昼食休憩後、宣伝カーは尾鷲の人たちを乗せて一旦戻り、すぐに前川さんが戻ってきてくれた。この日は先の予定が詰まっているので迅速な行動がありがたい。

大紀町では昨年懇談してくれた町長は不在で残念だったが、用意されていたペナントと協賛金を受領する。旧南島町支所の「原発を阻止した町」石碑前で手塚議員と落ち合い、神前集落を同議員のアナウンスでゆっくり一周した。初めての試み。さらに岡田議員の案内で南伊勢町役場を訪問し、町長からペナントと協賛金をいただく。夕刻、最後は宣伝カーを伊勢市の向井さんに届けてこの日の予定をようやく終了。今年の通し行進者は二人なので、鈴木さんに運転の負担がかかるのが気の毒(田中は8日晩に帰津)。二人は夕刻、ぶじ帰津。

### ○行進3日目(10日・土)

夏を思わせる暑い一日。志摩市と鳥羽市は57年ぶりの復活後、2年連続の行進。津から鈴木さん、紀平さんと田中が早朝の近鉄急行で輪方駅に向かう。9時半から志摩市役所で出発式。土曜日ということで役場からの挨拶はなし。場所の使用のみだったが、市長と議長から協賛金とメッセージをいただいていた。28人で歩く。道中、女性陣が沿道チラシをまいていた。

志摩市の行進には3人の警察官が付いた。彼らは道中汗だくになって交通整理をし、行進団を守ってくれる。交通量が多い通りを歩くのでここでは警官の警備が必要だ。到着地点の志摩アリーナでの解散式の前に司会が警察官にねぎらいの言葉をかけると警官も笑顔で応えていた。沖縄や国会前の抑圧的な警官隊とは違うローカルな風景である。

午後は鳥羽市でも行進したが、事務局の田中は伊勢市での講演会「伊勢市と第五福竜丸」のほうに参加したので、明日、報告。鳥羽市からは市長と議長、議員(一人)から事前に「国際署名」が県事務局に送付されていた。協賛金も毎年いただく。

コープみえ主催の講演会は大盛況だった。第五福竜丸は元々三重県産材木を使って建造されたこと、1956年に伊勢市の強力造船所で練習船「はやぶさ丸」に改造されていること、ビキニ被爆後の県内漁船への賠償額は全国で5番目に多いことなど、三重県と第五福竜丸との縁の深さが関係者の証言でよくわかった。これからの課題も明らかになった。

○9日は木曾岬町、東員町、いなべ市、菰野町への自治体訪問もあった。桑員と三酒の担当。

○時々、集合場所に行ったが誰もいないと田中に電話があります。変更された後の新しいコース表が手渡されていないため、県のほうも改善しますが、地域実行委員会でも毎年早めのコース決定を心がけてください。

○明日は50年ぶりの「いなべ→東員コース」の網の目行進と、全国でも屈指の長距離コース「伊勢→松阪コース」(26キロ)。安全・確実に到着することを第一に据え、熱中症に留意して歩きましょう。

○署名付き沿道チラシへの反響が県事務局に来ています。参加者に訴えてできるだけまくようにしてください。